

議会運営委員会調査報告書

1 調査事件

議会報告会まとめについて

2 調査の経過

前記事件を調査するため、平成26年6月5日及び20日に当委員会を開いた。

(1) 出席した委員

鈴木 逸朗 湊本 稔 波多野 優 日下 茂
木村 圭介 村田 公夫 能見勇八郎（議長） 山本 正之（副議長）

(2) 欠席した委員 なし

3 議会報告会の開催概要

議会基本条例及び議会報告会の開催及び運営に関する要綱に基づき、5月9日、13日、14日、19日、21日の5日間、5会場で議会報告会が開催された。

議会からは、各会場に議長を含めて9名の議員が、分担して参加し、パワーポイントも活用して、「次世代につなげるまちづくり～第2次朝来市総合計画～」と、「竹田城跡の保存と活用について」の2つのテーマに基づいて報告を行った。

別紙①のとおり市民など延べ260名が参加され、延べ45名からの発言があり、「意見書」を含む127名からのアンケートも寄せられた。

4 市民の発言について

各会場での市民の質問、意見等の発言は、延べ45件であり、別紙②のとおりである。

市民の発言は、議会活動に関するものは議会運営委員会に諮り、市政要望に対するものは市長に報告するとともに、請願、陳情の取扱に準じて所管の常任委員会に回付することとした。またその取組内容については、議会広報や今後の議会報告会などで、市民への広報に努めることとする。

5 市民からのアンケートについて

参加した市民のおよそ半数、127名から寄せられたアンケートの集計結果は別紙①のとおりである。

アンケートに記入された数多くの質問や意見、要望などについても、市民の発言に準じて取り扱うこととするが、記入者が必ずしも公表されることを想定していないこと、記載内容から特定の個人が推定できるものもあるため、委員会としては議員のみへの配付とし、対外的には公表しないこととした。

6 委員会のまとめ

① 今回から報告テーマの設定を2つにしたことで、議会からの報告時間が短縮され、市民の発言時間を増やすことができ、市民との意見交換も旺盛に行われた。引き続き、内容も含めてテーマ設定を十分に検討し、「議会活動について、市民と議員が自由に意見及び情報を交換」できるように留意すべきである。

- ② 今回から開催会場数を5会場とすることで、議会としてはゆとりを持って運営にあたることができた。しかし参加者数の減少に影響していることは否めない。参加者数を前年度と比較して、会場(地域)による差も見受けられることから、区長会や自治協議会への協力依頼や、開催ビラの配布などの開催周知の方法についても見直すべき内容がある。
- ③ 寄せられたアンケートの集計結果を見ても、参加者の年齢層や性別での偏重の課題が残されている。当然働きかけを強めるものの、特定の層を目的にして、テーマ設定なども含め別の企画として検討することも必要である。
- ④ 議員の報告は、パワーポイントや問答形式など、よりわかりやすく努められ、市民の評価も高い。また議会での審議内容と経過が明らかになるようにする点でも、定着してきている。しかし議員の発言において、「議員間において多様な意見がある事項については、報告又は応答に反映させるよう努めるものとする」ことについては、課題として残されている。

以上、朝来市議会会議規則第103条の規定により報告します。

平成26年6月26日

議長 能見 勇八郎 様

議会運営委員会

委員長 鈴木 逸 朗